

Ladder

平成22年8月26日 第11号

北海道教育庁学校教育局

参事（生徒指導・学校安全）

中1ギャップ・高1クライシスを解消するために

Q いじめを減らしていくためには、どのような取組が必要になりますか。

いじめを減らすためには、いじめの被害及び加害には、一部の特別な子どもだけがかわっているわけではないことを正しく理解し、未然防止に取り組むことが大切です。

そのためには、「Ladder」10号で示したいじめ発生のメカニズムを踏まえ、「友人ストレス」「競争的価値観」「不機嫌怒りストレス」の3つの要因を改善することを通して、いじめの発生リスクを減らすことが必要です。

いじめ発生のメカニズムを踏まえた対策

要因	課題	方策
①競争的価値観	<ul style="list-style-type: none">・「勝ち負け」という結果が強調されすぎることにより、児童生徒の緊張や不安感、いらだちなどが高まったり、負けた場合には無気力になりやすい。・ルールが曖昧で不正・不公平な場合に、いらだちや無気力感が高まる。・「勝つ」という目的のために手段を選ばない、相手の失敗や負けを期待するという考え方や態度に結び付く。	<ul style="list-style-type: none">・児童生徒に頑張らせたり励ましたりする際に、いたずらに「勝ち負け」を強調したり、相手をおとしめたりするような表現を用いたりすることを避ける。
②友人ストレス	<ul style="list-style-type: none">・児童生徒の集団体験（生活体験や社会体験）が不足している。・すべての児童生徒に対して基礎的な体験を提供するという「教育的な発想」に立ち、学校生活のあらゆる場面において他者とかわる機会を工夫していくことが必要。	<ul style="list-style-type: none">・トラブルが起きることも含めて集団を受け入れる。・集団の中でトラブルを回避するためにどうすべきかに気付かせる。・集団内の他者から認められる喜びに気付かせる。・自ら進んで他者や集団に貢献することが誇りに思えるようにする。○日々の豊かな人間関係を構築する。
③不機嫌怒りストレス	<ul style="list-style-type: none">・児童生徒が成長発達の途上にあり、人格形成のさなかにあることを踏まえることが必要。	<ul style="list-style-type: none">・ストレスの軽減や社会的支援の拡充など、いたずらにストレスが生じないように工夫を行う。

「子どもの人間関係づくり推進事業」

北海道教育委員会では、いじめや不登校等の問題行動等を「中1ギャップ」や「高1クライシス」の問題と関連させ、これらの未然防止を図るため、国立教育政策研究所の研究成果などを参考にしながら、子どもたちに人間関係を築く力を身に付けさせる「子どもの人間関係づくり推進事業」に平成22年度から取り組んでいるところです。

「Ladder」は学校間の接続を図る「はしご」を意味しています。